

新町建設の基本方針

1 新町の将来像

新町は、県都水戸市に隣接する立地にありながら、御前山県立自然公園を形成する森林や那珂川をはじめ、その支流となる複数の川など恵まれた自然環境を有しています。

一方で、少子・高齢化が進展し、第1次産業就業者比率が減少傾向にあり地域活力の停滞が懸念されます。

また、住民アンケートの結果から生活環境の整備、保健・福祉・医療の充実、産業の振興など安心して快適に暮らせるまちづくりへの要望が高くなっています。

1町2村の総合計画では、「自然」「交流」「共生」「連携」などのキーワードにより将来像を示しており、これらを踏まえ新町の方向性として、将来像を以下のように定めます。

新町の将来像

人と自然が響きあい ともに輝く住みよいまち

新町では、豊かな自然を保全しながら活用し、地域間交流、都市住民との交流を深めるとともに、新町に住むすべての人が快適な環境のなかで、魅力的で活力あふれる住みよいまちづくりを目指します。

2 新町の基本目標

新町では，1町2村の総合計画の施策の大綱に沿いながら，新町の将来像を実現するため5つの基本目標を設定し，その実現をめざしたまちづくりを進めます。

<基本目標1>

心やすらぐ自然環境のなかで 安全で快適に暮らせるまちづくり

御前山県立自然公園を形成する森林や那珂川をはじめ，その支流となる複数の川など，恵まれた自然はかけがえのないものです。都市化や地域開発が進み，地球環境が悪化するなか，自然の生態系の循環機能を後世に受け継いでいくことは重要な課題です。

新町では，自然と共生した循環型の地域社会の形成をめざして，恵まれた自然環境の保全と活用を図るとともに，リサイクルの推進や上下水道の整備などを図ります。

また，交通機関や道路網の整備による交通ネットワークづくり，情報ネットワークづくりなどにより，住民が快適に生活できる環境づくりを進めます。

さらに，防災・防犯・交通安全対策などを強化し，住民が安全で安心に暮らせるまちづくりを進めます。

<基本目標2>

ともに支えあいすべての人が元気で 安心して暮らせるまちづくり

少子・高齢化が進むなかで，21世紀を担う子どもたちがすこやかに生まれ育つよう，子育ての社会的な支援が求められるとともに，生涯にわたって住民が健康で安心して暮らし，積極的に社会参加できる地域づくりが求められています。

新町では，まちぐるみで健康づくり・生きがいづくりに取り組むとともに，安心

して保健・医療・福祉・介護の各種サービスが受けられるまちづくりを進めます。また、ボランティア活動の活性化を促進し、高齢者や障害者などを地域で見守り、地域で子どもを育て、住民一人ひとりが生きがいに満ちた、元気で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

<基本目標 3 >

豊かな地域資源を活かした 魅力と活力にあふれるまちづくり

産業は、住民に生活の糧を与え、生活を豊かにし、地域に活気を与えます。国際競争や産地間競争を克服し、継続的に発展していく産業を育成するため、時代の変化に対応した振興策を図る必要があります。

そのために、各産業を担う人材の育成や、生産を拡大し流通を円滑にする基盤の整備、イベントによる情報発信などの販促活動の支援など、地域特性を活かして発展してきた既存の産業を活性化させる多様な方策を図ります。

また、豊かな地域資源を活かし、都市を中心とした他地域との交流を図るため観光・レクリエーションのネットワークを形成し、魅力と活力にあふれるまちづくりを進めます。

<基本目標 4 >

次世代を担う豊かな心の育成と 歴史・伝統を大切にするまちづくり

ゆとりと個性を尊重する教育、生きる力を育む教育へ向けて教育改革が進められるとともに、心の豊かさを実感できる生活の実現が求められています。

近年、少年犯罪が多発しているなかで、これからの社会を担う子どもたちを地域で健康に育てるとともに、子どもから高齢者まで、生涯を通じて学習し、豊かな交流が生まれるまちづくりを進めます。

また、地域の歴史や伝統を大切にするとともに、地域特性を活かして新町の新たな文化を創造し、住民一人ひとりが、個性豊かに輝くまちづくりを進めます。

<基本目標5>

住民と行政がともに手を取りあう 開かれたまちづくり

活力と魅力あるまちをつくるため、住民一人ひとりが、まちづくり活動に積極的に参加し、住民と行政が共に考え、共に行動するまちづくりを推進します。そのために、住民活動の基本となる地域の振興を図るとともに、多様な機会をとらえ、積極的に広報・広聴活動を行います。

また、積極的な地域情報の発信・受信により、新町を対外的にアピールできるまちづくりや、人が集まるまちづくりをめざし、幅広い地域間交流を進めます。

さらに、合併によるメリットを最大限に生かし、デメリットを克服する行財政基盤の強化に努めます。

3 地域別整備方針

新町の将来像を実現するため、各地域がそれぞれの機能・役割の分担を図り、拠点を整備し連携していく地域構造の形成を目指します。

このため、地域の特性を共有する地域のまとまりとして「ゾーン」を設定し、それぞれのもつ地域資源の可能性を活かしたバランスのとれたまちづくりを目指します。

また、地域資源や公共施設の集積ポイントごとに「拠点」を設定し、これまでつながりのなかった地域や資源の特性を活かした役割・分担を図り、各地域の個性を活かし、有機的な連携により、その機能を増大させるための、交流ネットワーク「軸」を設定し、新しい交流・連携を目指します。

(1) 土地利用の方向性を示す3つの「ゾーン」

市街地・行政機能ゾーン

市街地・行政機能ゾーンは、新町の本庁舎（常北町役場）を中心に形成される市街地地域で、水戸市に隣接した立地から、住宅や郊外型商業など生活関連機能が集積しています。

このゾーンは、本庁舎を中心とした支所（桂村役場、七会村役場）との連携の中で、行政の中心となります。また下水道等の整備や道路網の整備等生活基盤の整備を図り、計画的な土地利用により適正な市街地を誘導し魅力ある生活環境づくりに努めます。

田園居住ゾーン

田園居住ゾーンは、新町東部から中央部に広がる那珂川の河岸沿いに発達した農業地帯です。

このゾーンは緑地や河川などの身近な自然環境や農村景観の保全に努めるとともに、生活基盤を整備し、居住環境の形成を図りながら快適で暮らしやすいまちづくりを目指します。

また、畑や水田の田園地帯であることから、農業の振興を図るとともに体験型農業等による他地域との交流の場として積極的な活用に努めます。

自然環境ゾーン

自然環境ゾーンは，新町西部から北部にかけて広大な広がりをもつ森林空間で，合間に集落が形成されています。

このゾーンは，恵まれた自然環境を保全するとともにレクリエーション空間として森林のもつ健康休養機能を活用し住民同士，住民と訪問者が交流するゾーンとして，各種観光施設の充実や，アクセス道路の整備や連携イベントの実施，誘導案内板の充実などによるネットワーク化を図ります。

また，生活利便性や暮らしの安全・安心を確保するため水道網や下水道等の整備など，地域環境の整備に努めます。

(2) 地域資源や公共施設の集積ポイントをあらわす3つの「拠点」

行政拠点

新町の本庁舎と2つの支所を行政拠点とし，公共施設の集積を図り多様な機会に住民が参画できる環境を整備します。

ふれあい健康拠点

保健福祉センター，国保診療所等の施設をふれあい健康拠点とし，すべての人が健康で安心して暮らせるよう保健・福祉・医療の充実を図ります

自然体験拠点

自然に恵まれた地域にある，ふれあいの里，うぐいすの里，山びこの郷，道の駅かつら周辺を交流拠点として連携を図り，周辺の自然環境を活用した観光レクリエーションの振興を図ります。

(3) 地域や資源間を結び交流を図る3つの「軸」

都市・交流軸

国道123号を中心とした水戸市につながる交流軸です。国道沿道には住宅地や郊外型商業などの生活関連機能が形成されており，住民の社会生活を支える基軸となります。

観光・レクリエーション・交流軸

県道水戸茂木線を中心とした，都市部と自然環境ゾーンを結ぶ交流軸です。常磐自動車水戸ICから，ツインリンクもてぎに通じる軸の沿線には，ふれあいの里などの観光施設やゴルフ場などがあり，都市住民に自然とのふれあい，やすらぎを与える基軸となります。

自然体験・交流軸

県道阿波山徳蔵線を中心とした，笠間地域と大宮地域を結ぶ交流軸です。那珂川の支流や森林など豊かな自然環境の中に散在した地域資源の連携を図り，自然の魅力を体験できる新たな交流の基軸となります。

ゾーニング図

